

# 日本英学史学会 中国・四国支部

## ニューズレター

No.96

*Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter*

<エッセイ>

### 本通りの丸善

馬本 勉

本通りに、丸善があった。「広島本通商店街」を正式名とするアーケード街を、広島の人はいたい「本通り」と呼ぶ。私の学生時代は、洋書を買うなら本通りの丸善であり、たびたび足を運んだ。「これは大学図書館にあるから」と買うのをためらい、それでも手許に置いておこうと再び洋書の棚を目指したこともある。ソーンダイクの3万語 (Thorndike, Edward L., and Lorge, Irving (1944). *Teacher's Word Book of 30,000 Words*. Teachers College, Columbia University) はそんな一冊だ。修士論文で語彙選定をテーマとし、研究者を目指すきっかけとなった書である。

丸善の2階にはバーバリーの店舗が併設され、洋書コーナーへ行くたびに洋服が目に入った。英国への憧れは丸善で生まれたのかもしれない。学部卒業時に初めて英国を訪ね、ロンドンでバーバリーのコートを購入した。そのときの店員さんが一目で私のジャストサイズを持って来たことや、ホストファミリーの老夫婦に“smart-looking”と喜んでもらったりしたことなどを思い出す。コートは今も現役で、冬の庄原には欠かせない。

丸善のあった場所は、今はドラッグストアになっている。丸善に続き、金正堂、積善館が本通りから姿を消した。ほどよいサイズの町の本屋さんがなくなっていくのは時代の流れかと残念に思ったが、丸善は閉店後しばらくして、八丁堀の天満屋に巨大な店舗として復活した (MARUZEN&ジュンク堂書店)。丸で囲まれたM字のロゴを懐かしく眺めたものだ。丸善は今、あの雄松堂と一緒に、丸善雄松堂として幅広く存在感を示している。(雄松堂のマイクロフィルム『初期日本英学資料集成』は、明治期の独習書研究でずいぶんお世話になった。)

丸善にはタイプライターもあったなあ、と思い出し、『学燈 丸善創業150周年記念特別号』の記事「丸善とタイプライター」(安岡孝一, 2019)にも目を通す。大学時代、年賀状仕分けのアルバイト代で手動の英文タイプライターを買ったのは、丸善近くの第一産業 (現在のエディオン) だった。今では信じられないかもしれないが、その1階にタイプライターのコーナーがあった。アルファベットのキーを押すと、振り下ろされたアームがインクリボンを押さ、その下にある紙に一字ずつ印字される。力を入れて打たないとうまく印字されないで、小指で操作する a, p, q, z は特に苦労した。その頃、英語の先生の研究室には、アームの代わりにゴルフボール状のものに活字が刻印され、電気式でぐるぐる回って印字される「電動タイプ」が置かれてあった。軽いタッチで高速に印字されるあのタイプは、IBMであったか...

と、こんな風に、「丸善」だけで、いくらでも学生時代の思い出の連鎖が続く。

さて、その丸善は今年創業150周年を迎えた。『丸善の150年と12の方法』(編集工学研究所 編, 丸善雄松堂, 2019)には、1869年に福澤諭吉の門下生・早矢仕有的 (はやし ゆうてき) が横浜で創業した、とある。丸善の歴史といえば、明治期の輸入英語教科書を研究する上で、『丸善外史』(木村 毅 著, 丸善社史編纂委員会, 1969) は欠かせない。創業100年の年に出た『外史』は、パーレー万国史とロングマン読本のそれぞれに日本のことを英語で綴った文章があることに触れている。この両者は夏の公開講座「明治の英語学習法」で扱ったが、『パーレー』の *History of Japan* の章には「日本人は各国の歴史を学ぶためにこの書 (パーレー万国史) を多数注文してくる」という記述があり、『ロングマン第四読本』の *Japanese Children* では、お茶や正月の遊びが紹介されている。

そして今、*Maruzen's Standard Dictionary* なる辞書が手に入った。キノコ、蝶、花、宝石、楽器などの図版が随所に挟み込まれた1913年刊行の英英辞典。丸善の歴史を紐解く機会がますます増えそうだ。

(県立広島大学/日本英学史学会中国・四国支部副支部長・事務局長)

## 令和元年度 総会・第1回(通算80回) 研究例会 報告



安田女子大学1号館1404教室にて(2019.5.25.)

日本英学史学会中国・四国支部 令和元年度総会, 及び第1回(通算第80回) 研究例会は以下の通り開催され, 大変充実した議論が交わされました(参加者11名)。ご参加くださいました皆様に, 篤くお礼申し上げます。

日時: 2019年5月25日(土) 12:30 受付開始

会場: 安田女子大学1号館1404教室

〒731-0153 広島市安佐南区安東6-13-1

支部総会(13:20~13:50)

議長選出, 平成30年度活動報告・会計報告・会計監査報告, 役員選出, 新年度活動計画  
開会行事(14:00~14:05) 支部長挨拶 竹中 龍範(元 香川大学)

研究発表①(14:05~15:15) [司会 保坂 芳男(拓殖大学)]

「二羽の不死鳥 — 河合 茂と永原敏夫」

田中 正道(広島大学名誉教授)

研究発表②(15:30~16:40) [司会 河村 和也(県立広島大学)]

「外来語の系譜」

松岡 博信(安田女子大学)

閉会行事(16:45~16:55) 副支部長挨拶

馬本 勉(県立広島大学)

懇親会(17:30~) とり楽 毘沙門店(広島市安佐南区大町東)

## 研究発表①

## 「二羽の不死鳥 — 河合 茂と永原敏夫」

田中 正道 (広島大学名誉教授)



## 【発表を終えて】

第二次世界大戦敗戦直後、印刷用の紙もままならない中、広島高等師範学校で昭和17年度末まで教鞭をとっていた河合 茂が『基礎英文法』(昭和21年4月20日発行)をいち早く出版した。本書は旧制中学校第二・三学年ならびに英語独学者のための学習参考書であり、戦時中、学徒動員等で知に飢えていた若者にとっては待ち焦がれていた書籍であり、「英語教育の復興」に貢献した書でもあった。本発表ではこの書籍の概要を紹介し、当時の出版業界の実情(惨状?)についても言及した。フロアーの皆様から著者河合 茂に関するさらなる情報を提供していただいたり、「特別行為税」等について貴重なご教示を賜った。本当にありがとうございました。

## 【参加者の感想】

◆河合茂『基礎英文法』を取り上げてご発表いただきましたが、配付資料にコピーされた奥付では昭和21年4月の発行とあるものの、その序には「附属中学校英語科主任の永原君と二人で」とあり、してみると、永原が昭和17年に高等師範に専任教授として転ずる前に著されていたものかと思われ、当時の事情があるにしても、いかなる経緯で戦後の発行となったのかを探っていただければと思います。また、昭和20年8月6日の原爆投下によって戦災死した永原敏夫が共著者として名を連ねることになってはいなかったのかと言ったあたりも関心を覚えるところです。

&lt;Dragon&gt;

◆今回のご発表でも、小生の知らない河合茂と永原敏夫について知ることができ勉強になりました。ところで、ハンドアウトには『基礎英文法』出版を「すばやい「教育の復興」の例として挙げられています

が、「すばやい」とは「印刷用の紙もままならない」状況の中で出版したことだけでなく、「2人の教育者が敗戦後いち早く出版したこと」をも指すと思われます。しかし、年譜では永原氏は昭和20年8月6日、つまり原爆投下で亡くなられており、戦後2人で『基礎英文法』を完成させ、出版するのは不可能と思われます。河合氏の「序」には同氏が広島高等師範学校英語科教授として在任当時に、附属中学校英語科主任の永原氏と協力して『基礎英文法』を書き上げたとあります。ハンドアウトの年譜によれば、河合氏が広島高等師範学校に在職した時期は昭和3年～17年、永原氏が附属中学校に在職した時期は大正14年～昭和17年です。したがって、昭和3年～17年の間に『基礎英文法』の原稿を書き上げ、戦後それを上梓したのではないのでしょうか。

&lt;E. Woodhouse&gt;

◆昭和31年(当時中学校2・3年生だった)ころ、英語の先生から「広島大学附属中学校の授業参観に行こう、勉強になる」と声がかかった。汽車に乗って英語の先生といっしょに出かけて行った。多くの先生たちの間に入り一緒に授業参観に加わった。一授業は口頭英語で始まった、そうして生徒たちは口々にLet me try! Let me try! と英語を発しながら授業が展開していった。教授者と生徒との英語によるコミュニケーションの内容が何であったのかは理解できるはずもなかったが、英語を話しながら授業が進んでいったことは強烈に理解できた。それからのち、昭和35年(大学に入学した)4月ころ、広島大学附属高等学校出身の女子学生が英語をペラペラと話しまくる姿を目にした。その英語を話すことができるという能力が再び学生の私に強烈なインパクトを与えた。(その女子学生はのちに転校したと聞いたように覚えている。)

今日、田中先生のご発表を聞いて、当時の広島大学附属中・高等学校の英語教育を取り巻いていた様子の一端をうかがい知ることができ、学生だった頃に受けた二つの強烈ななぞ— You speak English, yes very fluently! How can you do it? — に答えを出すことができた。それは「二羽の不死鳥—河合 茂と永原敏夫」のご活躍が脈打ってつづいていった英語教育にあったのだと。ご発表ありがとうございました。

&lt;Qats&gt;

◆広島にふさわしい内容の発表でした。戦時中の出版状況、GHQの閲覧の様子等、学ぶところが沢山ありました。

&lt;YH&gt;

◆第二次世界大戦直後の広島高等師範学校ゆかりの教育者が敗戦後、八か月後に英語参考書を出版したことは誠に驚異と思われます。当時の基礎英文法内容は今日の英語参考書と何ら変わりなく斬新なものでございました。とくに関係代名詞の限定、継続的用法の二例を示され、説明されました。今日の高校生たちに受験指導する中身と全く同じであります。大変参考になりました。広島高等師範学校の英語教育が戦後の教育をゆるぎないものにしたのだと確信いたしました。  
 <山田宗八>

◆河合茂と永原敏夫による『基礎英文法』のお話をうかがい、ぜひこの文法書を手に入れたいと思いました。この書の「序」にある「殊に文法に最も大切な然も平易な例文の選擇には特別な注意を拂つて」という方針は、この参考書を必要とする学習者を念頭においた、まさに現場的発想から生まれたものだと感じました。関係代名詞の解説や練習問題で用いられた英文はまさに平易で説明しやすく、著者らは例文の「選択」だけでなく、「創作」もずいぶん行ったものと思われます。自分の授業で使うための、英文法の基礎的なテキストを私も書きたい、との思いを強くしました。ありがとうございました。

<Horse>

## 研究発表②

「外来語の系譜」 松岡 博信 (安田女子大学)



### 【発表を終えて】

外来語が氾濫する現在、そのルーツの多くが英語であると誤解している人は多い。本発表は、なぜ英語では glass なのに日本ではコップであり、beer のことをビールと言うのかという疑問を掲げて始まった。その疑問への解説は、印欧祖語の変遷から始まり、グリムの法則が示す子音推移の例、Norman Conquest による英語へのフランス語の借入例などの紹介と続き、そこから日本語における外来語 (い

わゆるカタカナ語) のルーツを辿っていった。種子島に最初に漂着したポルトガル人と鎖国時代に唯一開かれていた出島でのオランダ人との通商を通じて、初期のカタカナ語はルーツは彼らの言語からのものが多いのは必然である。それ以外にも、フランス語、イタリア語、ロシア語、中国語などからの借入語の多さには驚かされる。英語教育にたずさわるものとして、外来語のルーツを知っておくことは、英語との対応を考えるという意味でも大変意義のあることだと思われる。当日いただいたフロアーの皆様からご意見、ご助言にあらためて深謝したい。

### 【参加者の感想】

◆外来語の系譜ということで概論のお話でしたが、国語学の方面でも日本語語彙史の問題として英学との関わりで外来語、殊に英語系カタカナ語移入の歴史を取り扱う分野がありますので、例えば、荒川惣兵衛などの研究に対し、初出年を遡る資料を発掘、提示されるなどして、英学史研究の立場からの貢献を示していただき、『英学史論叢』に一本を投じていただけることを願っております。もちろん、理髪店で用いるバリカンの語源を見つけた金田一京助の逸話に類したエピソード的な話などもも交えていただけると聞く側、読む側の興味も高まりますので、英学に限定せず、洋学一般に広げていただくことは歓迎するところです。  
 <Dragon>

◆「外来語の系譜」という壮大なテーマを取り上げられましたが、総花的で、焦点がぼやけてしまったきらいがありました。たとえば、「コップ」がオランダ語の kop から来ているという例を挙げられましたが、この語がいつ頃どのように日本語として定着していったのか、文献等で示されるとよかったですのではないかと思います。  
 <E. Woodhouse>

◆実例を挙げながら外来語の系譜について事細かく説明をされました。非常に興味あるものばかりでございました。とくにポルトガル語、オランダ語に由来する外来語が我々の日常生活に自然に溶け込んで使用していることに、改めて新鮮さを感じました。とくにオランダ語の「ontembaar」はオランダ領事官コップさんが津山に来られた時、その由来をくわしくうかがって身近に感じました。もともとの意味は雌馬(じゃじゃ馬)は気性も荒く飼い慣らすことができにくいことに由来しているそうです。外来語が自然に使われていることに驚きであります。

<山田宗八>

◆NHK WORLDのフランス語ニュースを読むときに、英語を読んでいるような気がして、なんだかもやもやとした気持ちにつつまれることがこれまでにしばしばありましたが、その問題はそのままにしておりました。ところが今日先生のご発表を聞いて、英語にある外国語のうちフランス語は、Norman Conquest (1066年) から今日までの間に29%に達していることを知りました。文字だけでなく統語論上も英仏語は共通性が高く、NHK WORLDのフランス語の怪が解けました。それ以上に分かったことは、(一つの)言語の中の外国語の系譜を知ることにより、(その)言語の内面を覗き見る理解を得ることができるのだとわかりました。翻訳を超えた深層の理解へとつながっていくことがわかりました。ありがとうございました。 <Qats>

◆「印欧祖語」、「グリムの法則」など英語史の懐かしい(?) 学術用語について久しぶりにおさらいできました。外来語のなかには素性の複雑な「曲者」がたくさんあり、外来語研究の難しさを改めて認識しました。 <もみじまんじゅう>

◆英語の語源について楽しく学びました。 <YH>

◆外来語という、つい、欧米の言葉を思い浮かべがちですが、アジアの言語との関係についても具体例と共に触れていただき、理解が深まりました。ありがとうございました。 <Horse>

### 【研究例会全体について】

◆研究例会全体 通算で第80回の研究例会でしたので、なにか特別企画を提案すればよかったかと反省いたしております。次に記念例会を設定するとすれば、一般的には第100回を想定するでしょうかから、年に2回の開催であることで10年後のことになりますので、まず自分自身が参加できるかどうかの心配をせねばならず、その意味でも今回は惜しいことをしました。参加者数も気になったところです。若い人たちの勧誘にも意を配ることが必要かと思っております。 <Dragon>

◆広島で開催される5月例会にしては参加者が少なかったようで残念でした。 <E. Woodhouse>

◆フロアと発表者との間で質疑応答・情報交換も活発に行われ、有意義なひと時を過ごすことができました。ありがとうございました。 <Qats>

◆例年通り完璧な運営でした。ありがとうございました。 <YH>

◆例会で安田女子大学にうかがうたびに、キャンパスの変化に驚かされます。今回の新1号館は、映画撮影の舞台になりそうな、まさに新しい時代の大学! といった雰囲気のある建物でした。学びの環境のあるべき姿の一つを見せてもらった思いです。 <Horse>

## 中国・四国支部ニュース

### >> 令和元年度支部総会

令和元年度支部総会は、5月25日(土)午後1時20分より、第1回研究例会に先立って行われました。竹中龍範支部長による挨拶の後、議長として田口純会員を選出し、以下の議題について審議を行い、すべて原案通り承認されました。

1. 平成30年度活動報告
2. 平成30年度会計報告
3. 平成30年度会計監査報告
4. 令和元・2年度役員
5. 令和元年度活動計画

### 平成30年度活動報告

事務局より、昨年度の活動について報告しました。内容は次の6項目についてです。

- (1) 支部総会
- (2) 第1回研究例会(広島)
- (3) 第2回研究例会(三原)
- (4) 『英学史論叢』第21号の発行
- (5) 『ニューズレター』No.92~No.94の発行
- (6) 役員会の開催(第1回、第2回)

平成30年度の活動内容については、『英学史論叢』第22号(pp.35-37)をご参照ください。

## 平成30年度 会計報告・会計監査報告

収入の部	
繰越金	395,969
年会費	120,000
紀要掲載料	13,000
紀要売上金	15,000
補助金	15,000
ゆうちょ銀行利子	2
収入合計	558,971

支出の部	
通信費	12,956
印刷費 (紀要, ニューズレター)	58,228
事務費	886
事務用品	3,264
支出合計	75,334

次年度繰越金	483,637
--------	---------

以上、ご報告申し上げます。

2019年4月30日 会計担当理事 鉄森令子 ㊞

各位

本学会の会計を、収入並びに支出に関して、それぞれ関係書類及び領収書等により監査いたしました。

その結果、会計報告の通り、全て適正、正確に会計処理ができていることを確認いたしました。

以上報告いたします。

2019年5月13日 会計監査 平本 哲嗣 ㊞

会計監査 野村 勝美 ㊞

## 令和元年度活動計画

## 1) 研究例会

- ・第1回 令和元年5月25日(土)  
広島市・安田女子大学にて。  
例会当日、理事会および支部総会を開催。  
(予定通り終了)
- ・第2回 令和元年12月14日(土)  
岡山県津山市・津山洋学資料館にて。  
例会当日、理事会を開催予定。

## 2) 支部研究紀要『英学史論叢』第22号

(2019年5月25日発行)

巻頭言
楠学問か梅木学問か (竹中 龍範)
研究論考
『用法例解英和新辞典』(1913)に見る コロケーションの認識 (竹中 龍範)
英和辞典とコロケーション情報 —明治末期・大正初期に見るその萌芽— (竹中 龍範)
英学史随想
川地理策：幅広い教育活動—「親心」と「子心」— (五十嵐 二郎)
英文学受難の時代 (田中 正道)

## 3) ニューズレター

No.95 (令和元年5月, 発行済み)

No.96 (本号)

No.97 (年度内に発行予定)

## &gt;&gt; 令和元年度第1回役員会

第1回役員会は、支部総会に先立って行われ、総会における審議内容の確認、ならびに令和元年度第2回研究例会の計画を確認しました(出席者5名)。

## 中国・四国支部事務局より

## &gt;&gt; 年会費納入のお礼とお願い

すでに多数の会員の皆様より今年度の会費(一般3,000円, 学生2,000円)をご納入頂いております。ご協力に感謝申し上げます。これからお振込みの方は次の口座までよろしくお願いたします。(振込手数料をご負担くださいますようお願いいたします。)

ゆうちょ銀行「振替払込用紙」を用いる場合

(口座番号) 01360-9-43877

(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

他の金融機関から振込む場合

(店名) 一三九(イサキョウ)店(139)

(口座番号) 当座 0043877

(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

## >> 紀要の配付と販売について

研究紀要『英學史論叢』は、会員の方へ一部ずつ、研究論考・研究ノート執筆者には所定の部数をお渡ししています。最新号やバックナンバーをご希望の方には、一部1,000円（非会員1,500円）にて販売いたします（郵送料込）。詳細は事務局までお問合せください。

なお、バックナンバー収載の研究論考等のタイトルは、支部ウェブサイトにてご確認ください。

『英學史會報』『英學史論叢』所収論考一覧 URL  
<http://tom.edisc.jp/eigaku/bulletin/eigakushi-kaihonso.htm>

## >> 『英學史論叢』第23号原稿募集

日本英学史学会中国・四国支部研究紀要『英學史論叢』第23号（2020年5月発行予定）にぜひ多数のご投稿をお願いいたします。

研究論考、研究ノート、英学史随想、英学史時評、書評等、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

・ご投稿に際しては、本ニューズレターに掲載の「執筆要領」(p.7) および「標準書式」(p.10) に従ってください。

・標準書式にそったテンプレートファイルをご希望の方は、事務局までお知らせください。

メール：eigaku@tom.edisc.jp

・原稿提出締切は、**2020年2月20日**（消印有効）です。事務局まで郵送してください。

・研究論考・研究ノートは、正副計3部をお送りください。正本1部にのみ著者名を明記し、副本2部には著者名を伏せてください。

・英学史随想、書評等は1部お送りください。

## 『英學史論叢』執筆要領

1. 『英學史論叢』に載録するものは研究論考・研究ノートおよびその他のものとする。いずれも未発表のものに限る。
2. 研究論考・研究ノート、その他のものとも、標準書式に従った完全原稿をパソコン等を用いて作成し、プリントアウトして提出するものとする。執筆者による校正は行わない。
3. 研究論考・研究ノートは日本英学史学会中国・四国支部研究例会、日本英学史学会本部月例会および全国大会、ならびに他支部研究例会における口頭発表をまとめたものとする。これによらない投稿論文も受理することがある。いずれも正副3通を提出するものとし、正本1部には著者名を明記し、副本2部には著者名を伏せる。
4. 研究論考・研究ノートは参考文献・資料・図版等を含め、10ページ以内とする。
5. 掲載決定後の最終原稿は、修正を求められている場合はそれに対応した上で、プリントアウトしたもの及びデジタルデータを提出する。原稿は提出されたものをそのまま印刷するものとし、したがって、執筆者による校正は行わない。
6. 研究論考・研究ノートの掲載料は1編につき3,000円とする。ページ数を超過した場合は、1ページにつき1,000円の追加掲載料を負担するものとする。学生会員については、規定ページ数以内の場合は掲載料を免除する。但し、ページ数超過の場合は、超過分について1ページ当たり1,000円を負担する。
7. その他のものについては、英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等とする。これについては会員の投稿および編集委員会の執筆依頼によるものとし、いずれも原則として2ページ以内とする。なお、新刊書評・紹介は日本英学史学会中国・四国支部会員の著書ならびに中国・四国支部の活動に関わる著作を取り上げるものとする。

## 日本英学史学会 中国・四国支部

### 令和元年度 第2回(通算81回)研究例会(津山研究例会)のご案内

日時： 2019年12月14日(土) 12:30 受付開始  
会場： 津山洋学資料館 GENPO ホール  
岡山県津山市西新町5 TEL 0868-23-3324  
参加費： 会員，非会員とも無料

本年度第2回(通算第81回)研究例会を，12月14日(土)，津山洋学資料館(岡山県津山市西新町)にて開催いたします。開催にあたり，会員の山田宗八先生(山田共学道場)，田中美穂様(津山洋学資料館)に格別のご配慮を賜りました。篤くお礼申し上げます。

今回の研究例会では，山田先生，田中様より，地元・津山の英学史に関する研究発表をしていただきます。ぜひとも津山の地にお集まりくださいますようご案内申し上げます。

研究例会のあとには，忘年懇親会を企画いたしております。こちらの方へも多数のみなさまのご参加をお待ちしております。

開会行事(13:00~13:10) 支部長挨拶 竹中 龍範(元 香川大学)

研究発表(1)(13:10~14:00)

#### 『英和对訳袖珍辞書』復刻に向けて—箕作貞一郎との関わりを中心に—

山田 克惟(宗八)(山田共学道場)

1853年7月突然マーシュ・ペリーが浦賀に来航したとき，堀達之助は彼らに英語で“I can speak Dutch.”と話した。おそらくその言葉は“The first English words spoken by Japanese.”であった。それから9年後文久2年(1862年)，“A Pocket Dictionary of the English and Japanese Language”『英和对訳袖珍辞書』が完成する。袖珍辞書編集に協力したものの中に，津山藩医箕作阮甫の孫，箕作貞一郎，のちの麟祥がいる。津山藩蔵書として津山に存在することの歴史的意義を探る。

研究発表(2)(14:10~15:00)

#### 幕末から明治初年の津山における英語学習—宇田川興齋・準一の活動から—

田中 美穂(津山洋学資料館)

津山藩は，宇田川家や箕作家といった優れた洋学者を輩出したことで知られていますが，彼らの主な活躍の舞台は江戸でした。では，国元津山ではどのように洋学が受容されたのでしょうか。平沼淑郎は，明治初年の津山を「宇田川氏や箕作氏の感化で大抵の人はABCくらゐは口誦んでいた」と回想していますが，具体的な様子は殆ど分かっていません。今回の報告では，幕末に津山へ移り住んだ宇田川興齋，準一の活動から，津山における英語学習の一事例を紹介したいと思います。

閉会行事(15:00~15:10) 副支部長挨拶

津山洋学資料館 館内見学(冬季企画展「津山藩の英学事始」開催中)(閉会后~16:30)

忘年懇親会 (17:00~19:30)

会場： 銀水 (津山市北園町 22-4 TEL 0868-22-8353)

会費： 5,000 円

※当日お帰りの便は、20:05 津山駅発「快速ことぶき」(21:15 岡山駅着)が便利です。

※宿泊をご希望の方は、ご自身で予約してくださいますようお願いいたします。

交通のご案内 (JR 津山駅から) (津山洋学資料館 HP <http://www.tsuyama-yougaku.jp/> より)



〒708-0833 岡山県 津山市 西新町 5 番地 (箕作阮甫旧宅の東隣)

[TEL] 0868-23-3324 [FAX] 0868-23-9864

交通案内

◆バス JR 津山線津山駅より 東循環ごんごバス南廻り線で 10 分、西新町バス停下車徒歩 2 分

◆中国自動車道 ○津山 IC から車で 15 分 ○院庄 IC から車で 20 分

### 津山研究例会 参加申し込みについて

例会、忘年懇親会に出席を予定されている方は、12月9日(月)までに、電子メールにてご連絡を  
くださいますようお願いいたします。

事務局メールアドレス：[eigaku@tom.edisc.jp](mailto:eigaku@tom.edisc.jp)

※当日は 11:30 より、津山洋学資料館内にて役員会を開催します(役員会は、支部長、副支部長、理事により構成)。役員会構成員の皆様は、こちらのご出欠も合わせてお知らせください。

## 『英学史論叢』標準書式

1. 用紙はB5判白紙を用い、上部および下部に25mm、左右に20mm、それぞれ余白をとる。
2. 本文は、10.5ポイント文字を使用し、1行あたり38文字、1ページ38行の書式によって作成する。フォントは、和文は明朝体、欧文はCenturyを用いる。和文中の読点は「、」（全角コンマ）とし、和文・欧文を問わず、英字・数字はすべて半角文字とする。
3. 本文第1ページに論文タイトル、執筆者名を記す。論文タイトルは18～22ポイント文字を使用し、中央に置く。執筆者名は本文と同じ大きさの文字を用いて、右に寄せて記す。第1ページには、タイトル、執筆者名に続いて、30行を本文（見出しを含む）にあてる。なお、論文末に、右に寄せて、執筆者の所属をカッコに入れて示すこととする。
4. 本文中の見出しについては前節との間を1行アキとし、番号を付してゴシック体とする。但し、見出し中に欧文が含まれる場合にはそのフォントをArialとする。
5. 注は、尾注とし、本文中に右肩数字によって注のあることを明記する。
6. 参考文献は論文末に一括して示す。

## 英学史情報ひろば

◇『英学史研究』第52号（10月1日発行）

三好 彰「中濱万次郎が訳した航海学書の考察」

平田諭治「1880年代半ばのニューオーリンズ

万国博覧会をめぐる日本とアメリカの公教育」

高畑美代子「日本人最初のプロテスタント式葬儀

の外交問題化の顛末」

ほか2本、計5本の論文を掲載

◇『The Cornerstones』第40号（北海道教育大学

函館校英語同窓会、7月20日発行）

五十嵐二郎『英語の授業は英語で』の問題点を考える：『コーナーストーンズ』に感謝を込めて」 pp.3-5.

同「長い間、亀田の杜に見守られ、名誉と伝統に輝く我が母校に最敬礼」 p.61.

◇『広島ラフカディオ・ハーンの会々誌』第3号

風呂 鞆先生 追悼記念号（9月26日発行）

五十嵐二郎「風呂 鞆先生への最後の手紙：四先生の追悼の辞に因んで」 pp.3-4.

鉄森令子『ある保守主義者』に込められた風呂先生の想いを巡って」 pp.17-18.

**広島英学史の周辺(62)** 本ニューズレターの発行が大幅に遅れてしまいましたことを、心よりお詫び申し上げます。▼「本號の發刊が大遅變延[マ]して恐縮である。」「五月號の發行も大層遅れて了つた。讀者讀賢[マ]に對して誠に申譯ない。」「本月號もまた發行遅延のお詫びをしなければならぬ。讀者諸兄も、詫び言を聞くのは飽きて居られるだらうが、言わねばならぬこちらもいやである。」▼広島文理大英語英文学研究室が出していた『英語教育』は、その第一巻を昭和11年9月から昭和12年7月にかけて10号発行しています。その後半の号は、編集後記で毎回のように上のようなお詫びを掲載。あの先輩大先生たちもそうであったか、と少し安心しています。それでも足掛け17年、60回を超えたこの欄にお詫びを重ねるのは辛いことだと改

めて思います。新年は心（人？）を入れ替え、スムーズな発行が実現することを願っています。▼では皆様、津山でお会いしましょう。（馬）

日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.96

2019年12月4日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部（代表 竹中 龍範）

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: 0824-74-1725（研究室直通）

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.96 December 4, 2019